

学校関係者評価報告書

2020年度

自 2020年4月 1日

至 2021年3月31日

専修学校 厚生労働大臣指定・製菓衛生師養成校
日本菓子専門学校

目的

学校関係者評価委員会(以下、当委員会)は、日本菓子専門学校(以下、本校)の自己評価において、客観性・透明性を高め、学外の関係者より客観的・専門的な助言を得ると共に、相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進する事を目的として、当委員会を組織した。

当委員会は、本校の自己評価を資料とし、関係教職員との意見交換等を通し、本校の学校運営・教育活動等について、検証および評価、助言を行う事を目的として実施している。

当委員会の委員は、本校の教育理念を理解し、菓子業界に精通した学外関係者を校長が選考し、委託をしている。

報告書は、2020年度の自己評価表を資料として、当委員会として評価および助言をまとめ作成したものである。

学校関係者評価委員

三浦 秀一 「日本菓子専門学校 校長」

大島 陽二 「レピドール洋菓子店 会長」

黒田 寛 「日の本穀粉 株式会社 代表取締役」

高澤 勉 「和菓子処 八洲 社長」

柳 正司 「パティスリー タダシ ヤナギ オーナーシェフ、

(公社)東京都洋菓子協会 会長」

和泉 光一 「アステリスク オーナーシェフ、

(一社)日本洋菓子協会連合会 指導委員」

学校関係者評価

1. 教育理念 「菓子業界の期待に応える人材づくり」

①現状における課題点

- ・ 教育理念や人材育成、将来構想など学生等への周知は概ね出来ているが、更なる社会経済、業界のニーズを踏まえ、店舗経営を意識し、生産効率を考えた教育、授業等、実社会に社会人として活躍出来るための、学校教育の方向性を考え、周知することが必要。
- ・ 特に入学検討者には更なる周知が必要。
- ・ 歴史ある学校のため、教育に対する理念、製菓の基礎知識、人材の育成等は安定した状態にあり、業界をリードする学校であると思う。ただし、時代の流れを反映し、スピード感のある教育を必要とする。
- ・ 業界のニーズ及び嗜好のニーズに学校教育の方向性を考える。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 基本理念は変えてはならない。その達成方法は、時代を加味しなくてはならない。
- ・ IT化などの新しい授業形態も検討し、更に社会経済、菓子業界のニーズを踏まえた、学校教育の方向性を考える必要がある。
- ・ 「菓子業界の期待に応える人材づくり」と考えるならば、未来を観るべきで、菓子業界の、特に卒業生を採用いただいた求人企業の意見を聞く事が大切である。
- ・ 現在の世界ニーズに応えられるネット授業等の新しい教育の発信。

2. 学校運営

①現状における課題点

- ・ これからの18歳未満人口の減少に対応すべく、学生の要望に応える新学科の開設、産学提携を考えた授業の導入を検討。
- ・ 学校運営に関しては、事業計画、人事、給与に関する規定等は問題はない。教職員等の就業時間もしっかり管理されている。時折、セクション間での異動を行う事により積極性を養う必要がある。
- ・ 情報システム化等による業務の効率化により、情報漏洩の危険性もあるため、使用ルール等の周知徹底化。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 成績・出欠席管理等のシステムをクラウド管理化も含め再検討する。
- ・ 可能な限りオンラインにより、業務負担を軽減し、連絡書類などのペーパーレスの推進を希望する。
- ・ 教育局、事務局との情報の共有化を進め、より良い学校運営を希望する。
- ・ 校長より報告及び会議報告を頂いており、現状は理解出来ている。
- ・ 学校運営には、今後とも一層、IT化が進むと思うので、その管理には十分に注意してもらいたい。
- ・ 学校教職員のコミュニケーションを徹底し、諸問題を共有・共通認識し、校長の基、団結して業務を改革し、魅力ある元気で明るい学校にしてください。加えて、組織のバランス作りを実施し、今の時代に合った若い人の感性・価値観を認め合い、若い力(特に女性)の創出・登用を望みます。

3. 教育活動

①現状における課題点

- ・ 関連企業・業界団体との連携を更に進め、カリキュラムに実践的な職業教育を組み込むよう考える。
- ・ 教職員の能力開発のための研修、実践的な職業教育をカリキュラムに取り込む事が課題。
- ・ カリキュラムや教育方法の工夫や開発によって、実践的な職業教育は有用だと考える。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 学生が関連企業でのインターンシップ(職業体験)を実施しているが、更なる充実を進める。
- ・ 業界との連携を深め、そのニーズを踏まえた授業を組み込む。
- ・ 教育理念に沿った履修規定、実施方針に基づき、多方面からのカリキュラム編成がされている。
- ・ 教育という観点から「なぜ」だけでなく、何の目的でこの作業を行うのかを理解する教育をお願いしたい。
- ・ 入社前までに、一般常識、計量のための比率計算等、和洋菓子の製作に不可欠な学力を付けさせる事がスムーズに社会人として“仕事”に取り組める事に繋がると思う。
- ・ 教育理念に沿ったしっかりとした授業、外部講師を招いての授業等、業界の今を反映した教育は十分出来ている。
- ・ 在宅学生に向けてのネット授業やプロの卒業生に向けての特別授業等の実施。
- ・ 教職員の研修、コンクールへの積極的な参加による個人のスキルアップを図ってほしい。
- ・ 新しい機器も良いが、今ある物での適確な操作の習得を期待したい。

4. 学習成果

①現状における課題点

- ・卒業生の行動、社会的な活躍・評価・動向など情報収集する体制を整え、さらに把握する必要がある。
- ・求人企業、業界団体、同窓会などと綿密な連携を取り、卒業生の活動状況と課題点を把握し、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、次なる学校教育活動の改善につなげていく。
- ・海外の業界団体とも連携を深め、留学卒業生の活動も把握する。
- ・卒業生への就職後の本人への現状聞き込みや、経営者等への聞き込みの情報収集。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・同窓会組織と連携を図り、卒業生との横のつながりを更に強くし、情報を共有する事を望む。
- ・就職率が100%であれば問題はない。
- ・HP等を使用し、業界にいる卒業生が意見を発信出来る場を設ける。
- ・定着率の向上を目指す。
- ・目標達成への指針を与える。

5. 学生支援

①現状における課題点

- ・経済的な支援策が出来る体制を整える。
- ・学生支援体制は整っているが、様々なタイプの学生に対応するため、より細やかなヒアリングやメンタルケアなど、心身共に管理出来る体制を整える。
- ・メディアからの依頼、出張授業などに、より力を入れて学校の認知度をさらに上げる。
- ・健康管理は当校では難しいと思うが、世田谷区の施設を使い、学生の健康管理が出来ないかを検討。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・校友会奨学金制度、留学生対象奨学金制度、外部奨学金制度、学校授業補助などを導入しているが、学生に対しての支援内容をこれまで以上に充実してほしい。
- ・学校単位、教職員単位での適切な対応を出来るようにする。
- ・健康管理が一番である。指定病院もあり、学生傷害保険も学校として掛けているが、火傷や負傷など処置の徹底を図ってほしい。
- ・学生へのメンタルケアの専門家は必要である。

6. 教育環境

①現状における課題点

- ・一部の機器や器具の老朽化等、今後の対応が必要。
- ・学生、教職員の防災・災害に対する意識の再確認を行い、より良い環境の維持に努める。
- ・先生には海外校へのインターンシップで、学生には国内の会社へのインターンシップで外部の現状を体験して常に新しい教育方法の参考にする。学生は学んだ事を教室で発表し色々な職場をより理解する。
- ・器具、備品の整備を日常的に行ってほしい。
- ・学生の将来の構想。(教育活動と連動する。)

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・学生に対して学生傷害災害保険には加入しているが、学校として今後もいかなる事態も対応出来る体制整備に努めたい。
- ・災害に備え、すでに食料などの備蓄はしてあるが、更なる充実を図る。
- ・常に時代のニーズに合わせた機器、器具のリニューアルに努める。
- ・防災、器具、管理等、防災責任者を中心に、教育環境を整える。
- ・現場実習の取り入れを更に検討する事によって、より身近に体験をする。(インターンシップ。)
- ・インターンシップを授業の一環として出来ないか？ 就職希望者は実際の就職先での実施を検討する。
- ・学校の施設は申し分ない環境である。

7. 学生の受け入れ募集

①現状における課題点

- ・更なる入学者獲得のため、より一層の学生数増加を目指す。
- ・学生募集活動は概ね適正に行われているが、まだまだ学校周知不足であるため、より一層の学校周知活動を行う。
- ・常に新しい時代に合った方法に変えていく。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・HP、SNS等を活用し、学校の“今”を伝え、伝統ある学校ならではの魅力を強調していく。

8. 法令等の遵守

①現状における課題点

- ・ 学生等の個人情報に対する保護の強化。
- ・ 学内の学生・職員等の個人情報のシステムセキュリティ強化を進める必要がある。重要なレシビ等の管理についてもう一度見直す。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 法令に遵守し、すでに適正に運営している。個人情報保護の観点からも、クラウド管理で使用者を限定しており、使用目的以外には利用出来ないように徹底をしている。引き続きこの管理体制の徹底を望む。
- ・ 委託外部講師に、その道の専門(法律)の方がおられれば指導を頂く。
- ・ 100年に1度と言われているコロナ禍の中、何が起こるか分からない状況の中で、専門家の意見を参考に、現在対策が取られているが、更なる学校としての危機管理体制の強化を望みます。

9. 社会貢献・地域貢献

①現状における課題点

- ・地域の各団体などとの地域貢献活動、学校周辺の学生による清掃活動は行っているが、学校側より貢献活動を更に呼びかけ、発信し知名度向上を図ることで、地域との関わりも大切にしていく必要がある。
- ・社会貢献、地域貢献、ボランティア活動等に支援を行えるよう努める事はもちろんだが、普段からの学生各個人の常識ある行動を心掛けさせることが大切である。
- ・コロナ禍が収束してからの活動と思うが、高齢者(老人ホーム)と、子ども達に対してのボランティア活動が考えられるが、現在は難しいと思う。
- ・業界人としての礼儀や意識付けを学校単位でしっかりと教えていく必要がある。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・地域の方々に安心して来場して頂けるよう、より安全性の高い学園祭の実施を希望する。
- ・社会貢献等の貢献は、他人より言われるのではなく「自分でやりたい」と思わないと、意味がないと思います。学生にディスカッションさせて何が出来るか、話し合いをする事が大切だと思う。
- ・インターンシップ制度を取り入れ、社会で働くという意識を高める。
- ・学園祭は知名度の向上や、近隣者に喜んでいただけている。
- ・学生のボランティア活動や清掃活動は、評価をいただけている。
- ・Tシャツを作って清掃活動を実施するなど、学校周知活動に繋げる。

10. 国際交流

①現状における課題点

- ・ ホームページ等で学校紹介などを外国語で発信し、広報活動に努める。
- ・ 留学生の国内での就労をサポートし、留学生の就職率を上げるように努める。
- ・ 卒業後の留学生の活躍を把握し、情報を得る流れを確立する。
- ・ 欧州、アジア各姉妹校、友好校との交流を更に深めていく。
- ・ 留学生同窓会支部の更なる充実を図る。
- ・ 留学生の増加に伴い、日本の学校で学ぶという意味をもっと理解してもらう必要がある。
- ・ 日本の学校でしか学べない授業内容の強化。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 留学生に対して、和洋パン教科書用の留学生対訳本作成により、授業内容の理解と円滑化に努めている。
- ・ 帰国卒業生の海外支部を更に発展させ、情報交換ルートを作り、より強固な人脈づくりを図ってほしい。
- ・ 留学生の言語が分かる教職員を配置し、留学生も過ごしやすい環境を作ってほしい。
- ・ 留学生の受入も適正に行われており、特に問題はない。
- ・ 新型コロナウイルスの中、学生募集や学校運営に苦勞されておられると思いますが、ぜひ支障のないように精進していただきたいと存じます。